

再評価

資料 1 - 5  
関東地方整備局  
事業評価監視委員会  
(平成16年度第4回)

# 江戸川直轄河川環境整備事業 (利用推進事業)



平成17年1月27日  
国土交通省関東地方整備局

# 江戸川直轄河川環境整備事業（利用推進事業） 再評価資料

## 目 次

1 . 江戸川の概要	1
2 . 江戸川の河川環境	2
3 . 江戸川の利用状況	3
4 . 江戸川の河川利用に関する課題	4
5 . 江戸川空間管理計画	5
6 . 江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画	7
7 . 江戸川環境整備事業箇所	8
8 . 整備事例（1） 関宿流頭部地区環境整備	9
9 . 整備事例（2）	10
10 . 整備事例（3） 江戸川環境整備	11
11 . 整備事例（4） 江戸川航路浚渫	12
12 . 費用対効果分析	13
13 . 今後の対応方針（原案）	16

# 1. 江戸川の概要

- 江戸時代、徳川家康の利根川東遷事業により誕生した人工河川
- 千葉県、埼玉県、東京都境を緩やかに貫流。中下流部は人口密集市街地にあたり都市部の貴重なオープンスペースとしてスポーツや散策等多くの人々が利用。
- 沿川には、矢切の渡しや柴又帝釈天などの歴史・文化施設もあり。



## 2. 江戸川の河川環境



茨城県五霞町



千葉県流山市



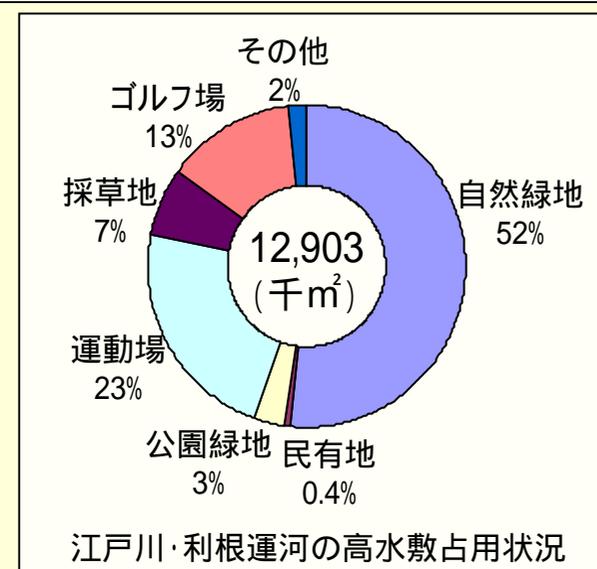
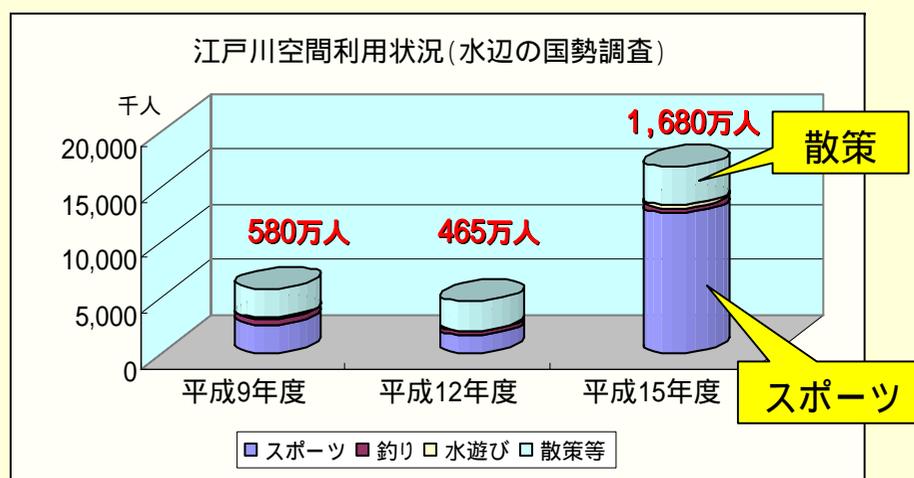
東京都葛飾区



千葉県市川市

## 3. 江戸川の利用状況

- ・ 年間利用者1680万人、沿川居住者利用回数 約5.6回/人
- ・ 沿川自治体の高齢化が進展する中で、身近なスポーツ・レクリエーション・癒しの空間として期待が高まっている。



高水敷のグラウンド  
東京都葛飾区



堤防上のサイクリングロード  
埼玉県三郷市



水上バス乗り場  
東京都江戸川区

## 4 . 江戸川の河川利用に関する課題

堤防が約10mと高く、高齢者、障害者およびベビーカー等で利用しづらい。  
散策やサイクリングの際に、手軽に利用できる休憩施設が少ない。



堤防が高い

千葉県野田市



階段の上り下りが大変

東京都江戸川区



階段や坂路がまだまだ不足

東京都江戸川区



散策時の休憩施設が少ない

千葉県流山市

## 5 . 江戸川空間管理計画

江戸川では、河川空間の保全と利用を適正に行っていくため、「江戸川区域空間管理計画」を策定し、下記のとおり河川空間区分を設定。

### (河川空間区分)

#### 自然利用ゾーン

自然環境や景観を生かし、自然観察や野草広場、生産緑地等、準自然的な環境を保全しつつ整備し、自然志向のレクリエーション活動ができる場として利用する事が望ましい空間

#### 整備ゾーン

高水敷や河岸を活用し、広場、公園、階段護岸等の整備を行い、各種レクリエーション、スポーツ活動等に利用する事が望ましい空間

## 【江戸川河川空間配置計画図】



## 6. 江戸川すべての人にやさしい 川づくり推進計画

- ・だれもが何の障壁(バリア)もなく河川へアクセスできるよう、ユニバーサルデザインを採用した緩傾斜スロープ、散策道および川の一里塚等の水辺拠点整備を推進。
- ・沿川14市区町村と連携し「江戸川すべての人にやさしい川づくり推進計画」を策定。当面の計画として50拠点を整備。

50拠点の位置図



計画書(案)表紙



# 8 . 整備事例(1)

# 関宿流頭部地区環境整備



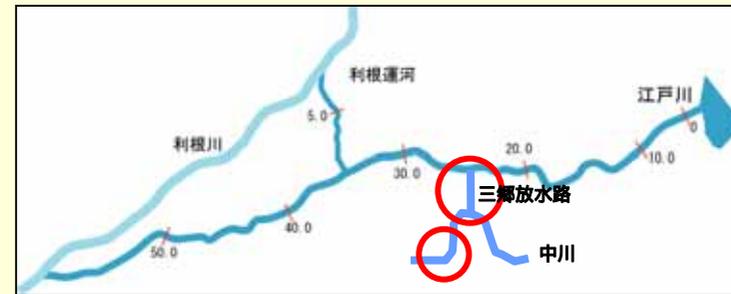
散策路



バリア 緩傾斜スロープ

# 9. 整備事例(2)

## 三郷放水路環境整備



散策路

## 八潮環境整備



緩傾斜スロープ・階段

# 10 . 整備事例(3) 江戸川環境整備

**三郷地区 (三郷市)**

**整備前**

**整備後**

緩傾斜スロープ

**まこも池地区 (松戸市)**

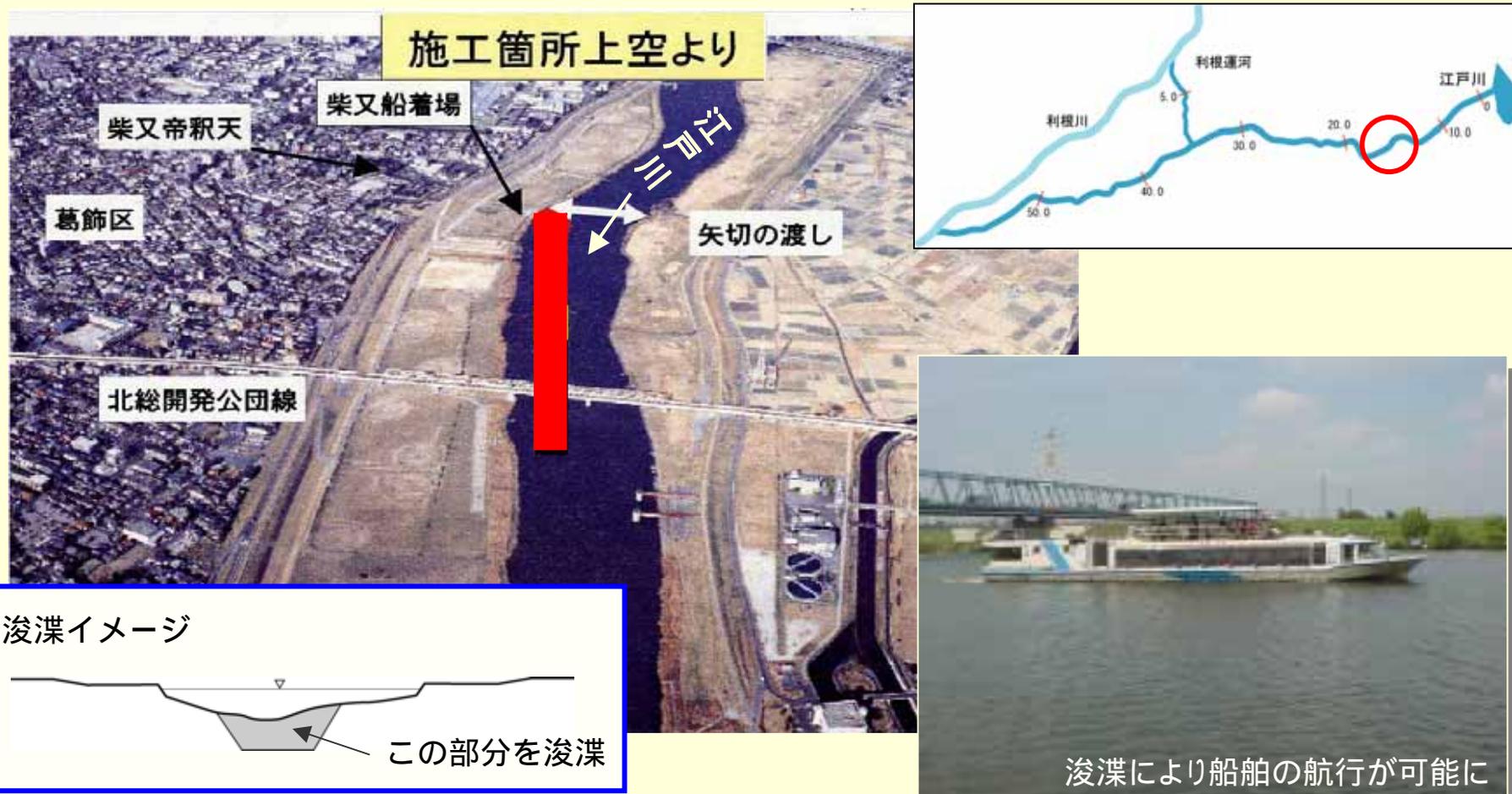
**整備前**

**整備後**

緩傾斜スロープ

# 11. 整備事例(4) 江戸川航路浚渫

- 江戸川下流部の航路を確保するため浚渫を実施
- 水上バスによる観光利用の増加、緊急時の物資輸送にも活用可能



## 12. 費用対効果分析

### 便益の算定

計測手法 **CVM (仮想市場法)** による **負担金の支払意思額**

#### アンケートの内容

「江戸川の利用促進を図るため、散策道・植栽、緩傾斜スロープおよび航路浚渫を行うにあたり、あなたの世帯で毎月いくら負担できますか。」

#### 集計世帯数

江戸川から10km圏内の

**1,200世帯** (全体1,034,557世帯)

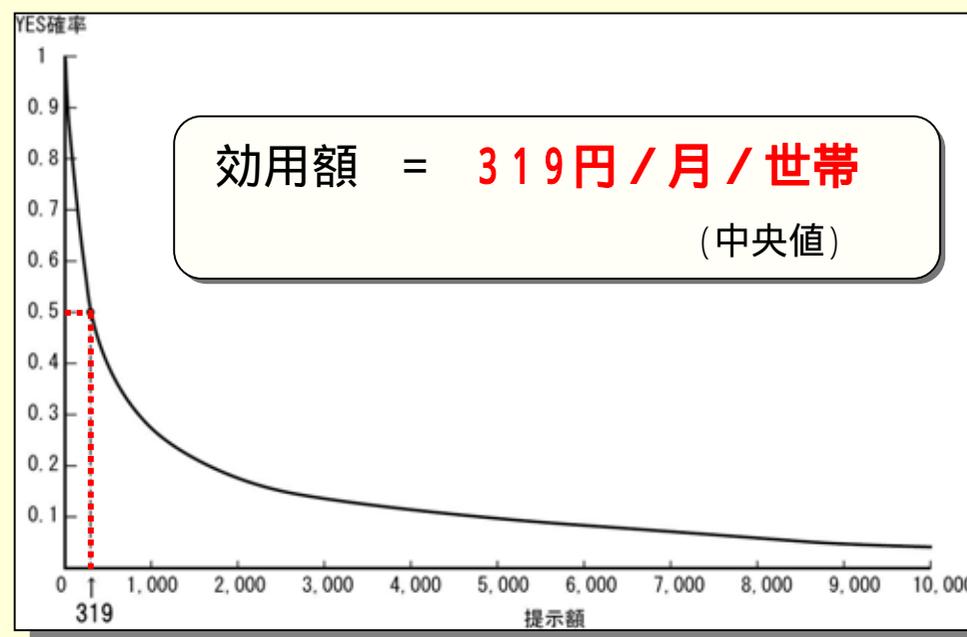
うち**有効回答数 379世帯** (約32%)

(調査対象市町村)

埼玉県: 草加市、八潮市、三郷市、吉川市

千葉県: 市川市(一部)、松戸市、流山市

東京都: 足立区(一部)、葛飾区、江戸川区(一部)



## 便益帰着範囲の設定



### 便益の帰着範囲

江戸川では、散策やスポーツ利用が多数を占め、ほとんどが沿川住民の方が徒歩・自転車等で来訪されていることから、便益の帰着範囲を**2 km**に設定

## 調査結果

$$\text{年効用額} = 319 (\text{円/月/世帯}) \times 12 (\text{ヶ月}) \times 378,249 (\text{世帯})$$

**1,447 (百万円)**

## 費用対効果分析結果

評価期間を50年とし、  
現在価値化を行った

**総便益** 約286.1億円

利便性・安全性の向上

水辺や自然とのふれあう機会の充実

環境教育・自然体験活動の推進支援

景観の向上

地域振興・活性化支援

**総費用** 約56.2億円

整備費用(維持管理費含む)

**費用便益費**

総便益 / 総費用 = 286.1億円 / 56.2億円  
5.10

## 13. 今後の対応方針（原案）

### 事業の必要性等に関する視点

江戸川では、誰もが安心して快適に利用できるよう河川へのアクセスの改善や休憩設備等の拡充等利便性の向上が強く求められています。

### 事業の進捗の見込みの視点

現計画の推進に関しては沿川自治体・住民との合意形成が図られており、今後の事業進捗にあたっては特段支障はないものと考えられます。

### 対応方針（原案）

本事業は継続が妥当と考えています。

拠点整備の早期実現に向け、沿川4都県14市区町との連携のもと、引き続き事業を推進していきます。